

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

古今東西の「あの世」のことを調べていて、気づいたことがあります。地獄の様子は場所とか民族とかによつてさまざまに異なっていて、それぞれ迫力と現実感に満ちているのに対して、天国の方は世界中ほとんど同じです。実に単純なんです。——美しい川が流れ、きれいな服を着た美女がいて、おいしい食べ物があふれている。環境が悪くないのに目をつぶれば、まさに、長い不況で暗く沈んだ今の日本こそ、天国ではありませんか！それなのに現代の人は、悲壮な顔をしてあくせく働いています。まるで日本全体に貧乏神が取りついたようなあんばいなんです（笑）。一生成命ががんばっても、報われない人たちが多いのではありません。水木サンに言わせれば、そういう悲壮な顔をした人たちは、成功や栄誉や勝ち負けにこだわって、仕事でも趣味でも恋愛でも、熱中することを忘れてしまったんじゃないでしょうか。好きなことに没頭する、このこと自体が幸せなはずなのに……。もちろん、成功することにこしたことはないのですが、成功できるかどうかは時の運です。思い起こせば、水木サンのベビイのころの教育は「成功者こそ幸せ」という感じでした。今でもそうかもしれません。出世して有名になつて栄誉を得て、人生の勝利者になるのが一番いいこと、といった具合です。戦争の影響で世の中が勇ましかったから、よけいそうだったのかもしれませんが、水木サンは納得できませんでした。水木サンが漫画で食べるようになったのは四十歳を越えてからです。ベビイのころからあこがれていた絵で食う暮らしにたどり着き、命の次に大事な眠りすら削って、うんと頭をしぼって、漫画にかじりついてきました。つい先ごろ、勲章をもらいましたが、だからといって成功したとも、栄耀栄華をきわめたとも、勝ったとも思いません。でも、満足しているのです。不幸な顔をした人たちは「成功しなかったら、人生はおしまい」と決め込んでいるのかもしれない。成功しなくてもいいのです。全身全霊で打ち込めることを探しましょう。

※作問の都合上、改編した箇所があります。（水木しげる『水木サンの幸福論』より）

語注

- ・古今東西（ここんとうざい）：昔から今まで、あらゆる場所で。いつでもどこでも。
- ・水木サン：筆者水木しげるが使う「自分」を指す。「一人称」。
- ・『ゲゲゲの鬼太郎』などの作品を描いた漫画家。
- ・悲壮な：悲惨な状況、悲しい中にも勇ましく雄々しいところがあるさま。
- ・貧乏神：取りついた人間やその家族を貧乏にする神。
- ・ベビイ：筆者水木しげるが使う「赤ちゃん」のことではなく、「子ども」全般を指す言葉。
- ・勲章をもらいました：さまざまな分野で高い評価を得た人に与えられる旭日小綬章を受章している。
- ・栄耀栄華（えいようえいが）：富や権勢があつてぜいたくを尽くすこと。人や家などが華やかに栄えること。
- ・全身全霊：その人に備わっている体力と精神力のすべて。

《設問》

問

この文章は、水木しげるが唱える「幸福の七カ条」の第一条「成功や栄誉や勝ち負けを目的に、ことを行つてはいけない」の全文です。この文章を参考に後の語群の語句をすべて用いて、きみが考える「幸福になるためにすべきこと」を、百字程度で述べなさい。（ただし、指定の語句はどのような順序で用いてもかまわないものとする。）

・好きなこと ・悲壮 ・没頭する ・人生はおしまい ・成功や栄誉や勝ち負け ・全身全霊

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

わたしはネコだ。かっこよくて、かしくくて、すばや
 いのがじまんである。せいべつはオスだが、『わたし』と
 言っている。ちてきなネコには、『わたし』がふさわしい。
 わたしは、こねこだったころ、この家にひきとられた。
 わたしをえらんだのは、4さいのおとこの子。わたしの
 きょうだいたちを見ていたかれは「この子がいちばんか
 わい！」と、わたしをだっこした。「かっこいい」では
 なく「かわい」というのはしんがいがだが、いちばんな
 のはとうぜんだ。わたしはすてきなネコなのだ。
 4さいのかれは、わたしはすてきなネコなのだと
 わたしにつくすのはあたりまえだろう。わたしは、かっ
 こよくて、かしくくて、すばやくて……しんがいで
 るが、かわいいネコなのだ。かれはまいにち、わた
 しのトイレをそうじした。かれはまいにち、わたしのあ
 たまをなでた。かれはまいにち、わたしとねこじやらし
 であそんだ。①かれ、という言いかたはよそよそしいな。
 言いなおそう。かれは、わたしのげぼくである。げぼく
 はとても、どんくさい。ごはんをたべおわるのも、かぞ
 くのなかではいちばんおそい。げぼくはとても、どんく
 さい。わたしのスピードについてこれず、いつもころん
 でハデに泣く。子どもの泣きごえはふゆかいだ。うるさ
 くてかなわない。げぼくよ、泣くな。うるさいから。
 ある日、げぼくがおもちやをかってもらった。よくわ
 からぬ、カクカクとしたロボットだ。……つくえにカク
 カクが立っている、きになるな。わたしはじまんのこ
 くきゅうで、カクカクをすこしいどうさせた。もうすこ
 し、はしっこがいいか。わたしはじまんにくきゅうで、
 カクカクをすこしいどうか。わたしはじまんにくきゅうで、
 たて、ゆかにおちた。よくわからぬが、それがまずかつ
 たらしい。

げぼくは泣いた。わんわん泣いた。②泣きながらわた
 しのしつぽをつかんできたので、ひつかいてやったらよ
 けいに泣いた。あんなどころにカクカクを置いていたほ
 うがわるかったのだ。わたしは、そうじしようとしただ
 けだ。よるごはん。げぼくはまだ、泣いている。おふる
 のじかん。げぼくはまだ、泣いている。ふとんのなか。
 げぼくはまだ、泣いている。まいにちなでくれるのだ
 が、きょうはまったくさわってくれない。まいにちあそ
 んでいるのだが、きょうはさそいもしてくれない。まい
 にちわらっているのだが、きょうはずうと泣いている。
 あくるあさ。げぼくはまだ、泣いている。……げぼ
 くに、わるいことをした。しかたがない。げぼくにすこ
 し、いいものをやろう。どんくさいアヤツにはとれない
 えものだ。わたしのじまんのあしてでつかまえた、とつ
 ておきの、おおきなえものだ。……泣いてよろこぶとは、
 よそうがいであった。げぼくはそんなに、この『ごきぶ
 り』がすきなのか。きがむいたらまた、プレゼントして
 やろう。

タナバタなる日。げぼくはたんざくをしたためた。『あ
 たらしいおもちやお かってもらえますよおに』……な
 げて、ねにもつやつなのだろう。「あつ、ながれぼし！」
 げぼくはながれぼしあいて、ねがいごとを言いはじめ
 った。しかし、ながれぼしなど、とうにどこかへ行ってし
 まった。③ほんとうに、しかたのないやつだな。わたし

のげぼくは。
 ときはたち、げぼくはとても、おおきくなった。か
 わいままのわたしにくらべて、げぼくはいまだにどん
 もくなつた。そのせいなのか、げぼくはたまにどん
 くさい。いちねんごとに、げぼくがたんざくにかくね
 がいはかわつた。そのうち、なにもかなくなつた。
 しかし、ほしを見るのは好きらしい。ながれぼしを見
 るたびに、いまださわいでいるのだが、どんくさいげ
 ぼくはやはり、ねがいを3かい言いきれない。
 この家にきて18ねん。わたしはすっかり、としお
 いてしまった。……げぼく。わたしは、どんくさいお
 まえとちがつて、とつてもすばやいはしれははい
 し、ごはんをたべるのもおまえよりははい。おまえ
 にはふかのうかもしれないが、ごきぶりだつてつかま
 えられる。わたしはとても、すばやいのだ。だから、
 としをとるのだつて、おまえよりもずつとはやい。わ
 たしはとても、かしくいネコだ。ゆえに、としをとつ
 てしぬのらう。しんだら、そらに、行くらしい。そ
 れくらい、げぼくもしつてるらう。バカなげぼくも、
 しつてるらう。……げぼく……。ひとあしききに、
 そらへとついたらながれぼしをひとつ、とつてやろう。
 ④いちばんおおきなほしにしよう。いちばんひかるほ
 しにしよう。いちばんきれいなほしにしよう。おまえ
 のために、とつてやろう。……げぼくよ、あんしんす
 るがよい。わたしはいまでも、おまえよりずつと、あ
 しがばやい。おまえにはふかのうかもしれないが、な
 がれぼしだつてつかまえられる。わたしはとても、す
 ばやいのだ。……だから、げぼく。泣くな。わたしよ
 りもおおきいくせに、みつともないぞ。げぼく……。
 げぼく……。……またな。

しんあいなるげぼくへ。わたしはげんきでやっている。
 こちらのせかいにきててもなお、わたしはかっこよくて、
 かしくくて、すばやいままだ。しんがいがだが、かわい
 いままである。なのできつと、げぼくもどんくさい
 ままだらう。そんなげぼくに、わたしはプレゼントを
 よういした。やくそくどおり、いちばんのやつを。ど
 んくさいおまえでは、まずつかまえられるシロモノ
 だ。よるこべ、げぼく。それに、おまえがこつちにき
 たら……わたしをなでさせてやつてもいいぞ。いっし
 よにあそんでやつてもいいな。えがおを見るのもわる
 くはない。すこしくらいはもてなしてやるから、こち
 らのせかいでわたしとあうのを、たのしみに行っている
 がよい。⑤しかしおまえは、いそいでしまつとすぐ
 ころぶ。なのでゆつくりくるがよい。おまえのペース
 でくればいい。あんしんしろ。ゆつくりでも、おつと
 りでも、どんくさくても、わたしはおまえをきらいに
 なつたりなどしない。いつかあえる日を、こころまち
 にしている。それじゃあまたな、たつしやでな。

かっこよくて、かしくくて、すばやくて、いちばんかわいわたしより。

（上野そら『わたしのげぼく』全文）
 ※作問の都合上、改編・省略した箇所があります。

《設問》

※すべての問の制限字数には句読点・符号を含むものとする。

問一 この文章から読み取れる飼い主を「げぼく」と呼ぶ「ネコ」の性格を三十五字以内で簡潔に書きなさい。

問二 関係を考えて、三十字以内で簡潔に説明しなさい。

問三 線部②「泣きながらわたしのしつぽをつかんできた」とありますが、この行動をとったげぼくの気持ちを三十文字以内で簡潔に説明しなさい。

問四 線部③「ほんとうに、しかたのないやつだな」とありますが、なぜですか。その理由にあたる部分を文中から十五字以内でさがし、「くから」という形につながるように書き抜いて、文を完成させなさい。

問五 線部④「いちばんおおきなほしにしよう。いちばんひかるほしにしよう。いそいでしまつとすぐころぶ。なのでゆつくりくるがよい。おまえのペースで」とありますが、なぜですか。ネコが「ながれぼし」をとる理由を考えて、三十字以内で簡潔に説明しなさい。

問六 線部⑤「しかしおまえは、いそいでしまつとすぐころぶ。なのでゆつくりくるがよい。おまえのペースでくればよい」とありますが、こう書いたときのネコの気持ちを三十文字以内で簡潔に説明しなさい。